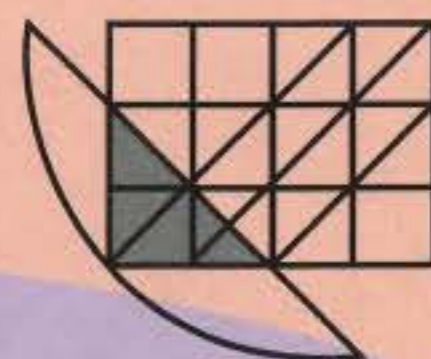


博物館だより



和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.11

2006.3

世界遺産登録記念特別展

熊野・那智山の歴史と文化

— 那智大滝と信仰のかたち —

平成18年(2006)10月7日(土)~11月19日(日)



特別展 和歌祭

— 祭を支えた人々、祭に込めた思い —

平成18年(2006)年4月29日(土)~6月4日(日)



4月29日(土・祝)～6月4日(日)

和歌祭は、江戸幕府を開いた徳川家康をまつる紀州東照宮の祭礼です。一六二九年(元和五)紀伊藩初代藩主となった徳川頼宣は、翌々年に和歌浦に東照社(のちに東照宮と呼ばれる)を造営しました。その東照社で春祭(神輿渡御)が行われるのは、一六三二年(元和八)四月一七日(家康の命日)のことです。この春祭が和歌祭と呼ばれるようになりました。当初の和歌祭は、頼宣が好む風流な練り物が多く出され、全国的にみても類をみない風流尽くしの祭礼でした。

この特別展では、これまでに確認できた和歌祭を描いた絵巻をはじめとする絵画資料を一堂に展示します。合わせて、和歌祭で使用された舞楽装束や百面(仮面)なども展示します。

展示構成

- 1 祭の舞台
- 2 和歌祭の成立と変容
- 3 遺された祭礼道具
- 4 諸国の東照宮祭礼(パネル展示)

館蔵品コーナー 11

那智三瀑図

野呂介石筆

一幅 絹本着色 江戸時代(一九世紀)
縦二二五・〇cm 横四八・六cm



那智滝として知られる一の滝を画面中央に据え、さらにその上流にある二の滝、三の滝を俯瞰して描いた作品です。山々を彩る秋の紅葉が美しく、また、一の滝の下の余白も、那智滝の水しぶきや画面の奥行きを感じさせます。

野呂介石(二七四七～一八二八)は和歌山城下の町人の家に生まれ、京都へ出て池大雅に絵を学びました。同じ和歌山出身の画家である桑山玉洲や、大坂の文人・木村兼葭堂とも交流を深め、寛政五年(二七九三)には紀伊藩士として取り立てられます。介石は、熊野をしばしば訪れ、その景観を題材に多くの作品を描きました。それらは、何度も訪れた土地であるだけに、地理的にも比較的正確で、実景により近い



紀州和歌御祭礼絵巻(個人蔵)



和歌祭礼用舞楽装束
常装束 半臂(紀州東照宮蔵)



和歌祭礼用百面
能面 大飛出(紀州東照宮蔵)



和歌山県指定文化財 東照宮縁起絵巻 第五巻(紀州東照宮蔵)

真景図的な作品も少なくありません。その一方で、公望や伊孚九など中国の画家の作品を見た経験も、介石の絵画制作に強い影響を与えたようです。実際には一望することが不可能な三つの滝を二画面に描くこの絵などは、実景のように見える景色の中に、中国絵画における山水画の構図をたくみに取り入れたものと考えられるでしょう。なお、介石の作品の中には、この絵に類似した作例がいくつか知られています。「那智三瀑」という主題は、介石の得意とするものであり、かつ、当時の人々に高く評価されたものでもあったのです。この作品は特別展「熊野・那智山の歴史と文化」で展示する予定です。



国指定名勝 那智大滝



重要文化財 木造千手観音立像(補陀洛山寺蔵)



重要文化財 金銅大日如来坐像(那智山青岸渡寺蔵)

世界遺産登録記念特別展

熊野・那智山の歴史と文化

— 那智大滝と信仰のかたち —

10月7日(土)～11月19日(日)

古来より大瀑布・那智滝は、仰ぎ見る者の心を揺り動かしてきました。その雄大な風景に人々は聖なる存在を意識して、今日まで連綿と継承される信仰の歴史を積み重ねてきたのです。そしてそれは、さまざまな参詣者を受け入れてきた、「那智」という地域の歴史そのものともいえるでしょう。

この特別展では、熊野信仰の重要な拠点の一つである那智山と、その信仰を支えてきた那智地域の歴史を時代を追って明らかにし、那智山の重層的な信仰のあり方と、信仰がさまざまに育んできた文化の広がりをご紹介します。



重要文化財 熊野那智大社文書(応徳三年内侍藤原氏寄進状案)
(熊野那智大社蔵)



重要文化財 金銀装宝剣拵 後藤琢乗作(熊野那智大社蔵)

重要文化財 古銅印
(熊野那智大社蔵)



【その他の主な出陳予定資料】

- 重要文化財 阿弥陀如来坐像 大泰寺
- 熊野本地仏曼荼羅 熊野那智大社
- 熊野本地仏曼荼羅 那智山青岸渡寺
- 那智参詣曼荼羅 補陀洛山寺
- 那智山補陀洛浄土図 野長瀬晚花筆
- 那智山青岸渡寺 他多数

